

2026年7月1日

各位

和歌山けやき大通りイルミネーション実行委員会

委員長 古澤良祐（株式会社タカショーデジテック代表取締役社長）

**和歌山けやき大通りイルミネーション、県庁前まで延長、3.5kmに
LED150万球超・街路樹約500本、日本最大から世界を目指す、11/21～27年2/28開催**



和歌山けやき大通りイルミネーション実行委員会（委員長：古澤良祐＝株式会社タカショーデジテック代表取締役社長）は1日、JR和歌山駅から和歌山城を経て南海和歌山市駅に向かう街路樹をライトアップする「けやきライトパレード2026」の開催概要をまとめました。4年目となる今回は、和歌山市役所前から和歌山城の西側となる和歌山県庁前までの約500mを延長、計3.5km・約500本の街路樹に150万球を超える発光ダイオード（LED）を灯します。けやきライトパレードはすでに日本最大のストリートイルミネーションとなっており、今回は世界一を目指します。開催は11月21日（土）から2027年2月28日（日）までの100日間で、実施時間は午後5時～11時。和歌山大学経済学部の足立基浩教授の研究室によると、前回はけやきライトパレードによる来訪者が約12万4000人増えて13億7000万円の経済波及効果を創出しており、地域経済を活性化しています。

25年7月には実行委員会と和歌山市が「和歌山市 光で彩る観光振興に関する連携協定」を結び、和歌山市と一体となって持続可能な観光まちづくりを推進しています。今回の“目玉”は和歌山県庁前までの約500m延長。これに伴い前回の街路樹435本、LED130万球をそれぞれスケールアップし、街路樹約500本に150万球を超えるLEDを灯します（詳細は算出中）。JR和歌山駅～和歌山城、和歌山城～南海和

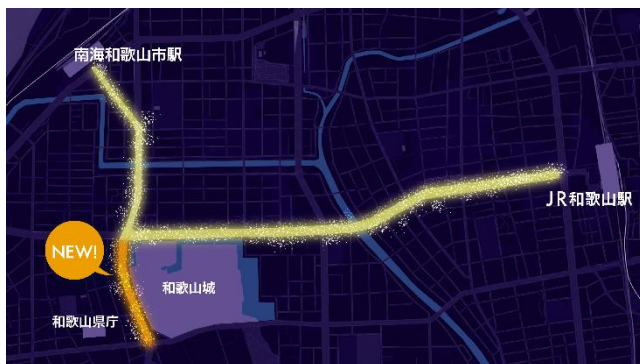
歌山市駅、和歌山城～和歌山県庁前とライトパレードがつながることで、3方向から賑わいが形成されます。

前述の和歌山大学調査による経済波及効果では、通常時に比べけやきライトパレード効果による増加来訪者数が約12万4000人で、直接効果となる域内最終需要増加額が8億9000万円、これに生産誘発の波及効果4億8000万円を合わせた13億7000万円の経済波及効果を生みだしました。同研究室による前々回の経済波及効果は2億1000万円だったことから、経済波及効果が大幅にパワーアップされたこととなります。また昨年度は169社の協賛、209店舗の協力のもと開催するとともに、「和歌山城～光の回廊～」 「WAKAYAMA LIGHTS 2025」 「日本あかり博」 など、市内で開催された光のイベントとも連携し、和歌山市全体の回遊性向上とにぎわい創出に寄与しました。今回も多彩な施策を展開し、市民と観光客がともに地域を盛り上げる“光のまちづくり”を推進します。

(ご参考)

【和歌山けやき大通りイルミネーション実行委員会の概要】

- ・ 実行委員長＝古澤 良祐 (株式会社タカショーデジテック代表取締役社長)
- ・ 事務局＝和歌山市栄谷151番地 (テレビ和歌山内)



(写真＝「けやきライトパレード2026」の開催地)



(写真左＝点灯式では地元の子もたちによるダンスパフォーマンスを披露、写真右＝同賑わい)



【本件の問い合わせ先】

和歌山けやき大通りイルミネーション実行委員会事務局

電話＝073-455-5721

FAX＝073-452-7380

Email＝ info@keyaki-light-parade.jp

以上